



写真等無断転載禁止

2025. 1 2. 8 発行 ニュースレター第 3 4 0 号

〒262-0019 千葉県花見川区朝日ヶ丘 5-24-2

TEL. 090-7941-7655 FAX: 043-483-0027 代表: 小西 由希子

E-mail: yatsudasukisuki@gmail.com, Home Page: <http://www.ceic.info/>

## 千葉県を横断する大規模パイプラインがほとんど知らされずに計画中?!

### ー首都圏 CCS 事業についてー

「首都圏 CCS 事業」とは、日本製鉄君津製鉄所(将来的には京葉臨海工業地帯)から発生する CO<sub>2</sub> を、パイプラインを通して木更津市、袖ヶ浦市、市原市、長柄町、茂原市、白子町、九十九里町と千葉県を横断して運び、九十九里町沖の海底地下に貯蔵するというものです。これほどの大規模な事業の実施有無が、地元といってもパイプラインの通るごく狭い地域への説明のみで、2027 年 3 月までに決められようとしています。以下が、政府機関主催の報告会資料で示されている、CO<sub>2</sub> パイプラインが通るルートの大まかなイメージです。



図: パイプラインルートの概要(令和 6 年度先進的 CCS 事業成果報告会資料より抜粋)

直径約 70cm のパイプラインは、私有地ではなくすでにある道路の下を通ることとなっています。全長 80km のうち、開削工法(道路 1.2~2.0m にパイプラインを埋設)が 60 km、シールド工法部分が 20 km と計画されています。各自治体の住民だけでなく仕事や観光で訪れる多くの人を通る道路です。仮に事業が実施されることになれば、2027 年から工事が行われ、2030 年には CO<sub>2</sub> の運搬と貯留が開始されることになっています。

これほどの大規模な事業が、ほとんど知らされずに水面下で進んでいるのです。2024 年度に行政や地

国際環境 NGO FoE Japan 吉田 明子

区長への説明が行われ、2025 年の 7 月から 12 月にかけて、各地で住民説明会が行われていますが、その告知はパイプラインから 50m の範囲内の住民に対して回覧板で連絡するというものです。自治体ホームページなどを通じた住民全体への告知や説明は今のところ行われていません。

CCS(二酸化炭素の回収・貯留)は、そもそも安定して長期に貯留し続けることができるかなど技術的側面の課題に加え、莫大なコストが大きな課題です。首都圏 CCS 事業についても、貯留可能量や費用の全体像はまだ見えていません。2027 年 3 月までに、経済性なども含め「事業化判断」が行われます。それまでに各地で情報を共有し、反対の声を上げていきましょう。

#### <首都圏 CCS 事業の概要>

- ・会社名: 首都圏 CCS 株式会社(株式会社 INPEX と関東天然瓦斯開発株式会社との合弁会社)、日本製鉄株式会社
- ・貯留地域: 千葉県外房沖(深部塩水層)
- ・貯留量: 約 120 万トン/年 \*将来的には 500 万トンへの拡大を想定
- ・排出源: 日本製鉄東日本製鉄所君津地区および京葉臨海工業地帯の複数産業
- ・事業の特徴: 京葉臨海工業地帯における CO<sub>2</sub> 排出源と CCS 貯留地とを大容量パイプライン導管で結ぶ。
- ・スケジュール:
  - 2024 年 事前調査や基本設計開始、ボーリング作業一部開始、行政への説明開始
  - 2025 年 地元説明、自主的な環境影響評価
  - 2026 年 上記を継続実施し、年度末までに事業化判断予定
  - (事業化される場合) 2030 年度圧入開始に向け、工事等実施
  - 事業継続年数、終了年度は未定

# 環境省シンポジウム参加報告

## ー環境影響評価の審査の在り方についてー

東京都江東区 小田 信治

はじめに  
ちば環境情報センターの研修制度の補助をいただき、2025 年 9 月 4 日（木）に名古屋大学で開催された環境省シンポジウムに参加しましたので、その概要を報告します。  
環境省シンポジウムは、環境アセスメント学会大会の前日に毎年開催されるのが恒例となっています。なお、環境アセスメント学会第 24 回大会については、鈴木さんがニューズレター第 338 号で報告されています。

シンポジウムの概要  
本シンポジウムのテーマは「環境影響評価の審査の在り方についてー地方公共団体の環境影響評価審査会のこれからー」であり、以下の話題提供およびパネルディスカッションが行われました。  
1) 環境影響評価審査関係者の交流推進（学会提言）について：小林 正明（環境アセスメント学会 副会長）  
2) これからの環境影響評価の審査の在り方について：片谷 教孝（桜美林大学リベラルアーツ学群 教授）  
3) 環境影響評価の課題～地域との共生の観点から：石井 一英（北海道大学 大学院工学研究院 環境工学部門 教授）  
4) 地方公共団体から見た環境影響評価の審査の現状と課題：郡島 啓（山口県 環境生活部 環境政策課 環境アセスメント班 主任）  
5) コンサルタントから見た環境影響評価の審査の現状と課題：水口 拓（アジア航測株式会社 環境・エネルギー技術部 技術部長）  
各話題提供およびパネルディスカッションの内容は、環境影響評価情報支援ネットワークの検討会ページで公開されています（文末\*）。

地方公共団体の環境影響評価審査会  
現在、47 都道府県および 21 政令指定都市すべてで環境影響評価条例が制定され、審査会が設置されています。審査会での審議は、首長が意見書を発出する際に重要な役割を果たしています。審査会委員は、地元自治体の有識者で構成され、主に大学等の環境関連分野の教員が任命されています。

環境アセスメントは、生活環境（大気、騒音・振動、水質など）、自然環境（動植物、生態系、地形・地質）、社会環境（景観、交通）、地球環境（温室効果ガス）など多岐にわたります。また、関連法令やアセス制度の観点からの検討も必要となるため、各分野の専門家を確保することは自治体の環境部局にとって容易ではありません。さらに、自治体ごとに課題となる環境問題は異なり、近年では風力発電や太陽光発電といった、従来にはなかった大規模再エネ事業への対応が求められています。

1976 年に川崎市で初めてアセス条例が制定されて

から、自治体アセス条例は約半世紀を迎えました。この間、公害問題から、生物多様性や地球温暖化が重視される時代へと移り、環境問題は一層複雑化しています。そのような中で審査会の役割と期待はますます大きくなっていますが、一方で審査会自体もさまざまな課題を抱えており、本シンポジウムのテーマ設定にもその問題意識が反映されています。

コンサルタントから見た環境影響評価の審査の現状と課題  
本報告では、シンポジウムの全内容を紹介することはできませんので、特に「コンサルタントから見た環境影響評価の審査の現状と課題」について、その一端を紹介します。  
コンサルタントは、事業者から依頼を受けて環境アセスメントの現地調査、アセス図書の作成、手続き等を担当し、審査会には事業者とともに出席して質疑応答を行います。審査会での意見によっては、再調査やアセス図書の修正を行うこともあります。  
審査会委員は各自の専門分野から意見を述べますが、なかにはアセス制度やその趣旨を十分に理解していない委員もあり、対応に苦慮する「コンサル泣かせ」の場面も少なくありません。こうした実態について、（一社）日本環境アセスメント協会が会員であるコンサル会社を対象にアンケートを実施しました。

コンサルタントへのアンケート結果			
分類	項目	件数	割合 (%)
A	事業を否定する意見	3	5.4%
B	アセス項目以外の質問や指摘	9	16.1%
C	手続き段階を考慮しない指摘	9	16.1%
D	アセスマニュアル、技術指針レベルを超えた過度な調査・予測評価の指摘	18	32.1%
E	委員の専門外の意見	4	7.1%
F	その他	13	23.20%
計		56	
JEASによるアンケート調査結果			

出典：コンサルタントから見た環境影響評価の審査の現状と課題

アンケート項目のうち、「アセスマニュアル・技術指針のレベルを超えた過度な調査・予測・評価の指摘」（分類 D）は、コンサルタントにとって請負金額や作業期間に直接影響する重大な課題です。  
アセス制度に対する誤解の一つとして、「予測手法は常に最高の精度を求めるべき」という考え方があります。しかし、環境アセスメントの目的は、適切な環境保全措置を検討することであり、その目的に応じた合理的なレベルの調査・予測を行うことが求められます。審査会は、委員の専門分野の追究の場ではなく、制度趣旨を踏まえた総合的な判断の場であることが重要です。

環境省では、こうした課題を踏まえ、「環境影響評価審査会関係者連絡会議（仮称）」の設置を検討しています。今後、より良い審査会の運営を通じて、地域の環境保全が一層推進されることを期待します。

\* 環境影響評価情報支援ネットワークの検討会ページ  
[https://assess.env.go.jp/4\\_kentou/4-3\\_seminar/reportdetail.html?page=4\\_kentou/index&kid=1078](https://assess.env.go.jp/4_kentou/4-3_seminar/reportdetail.html?page=4_kentou/index&kid=1078)

## 「自然誌フェスタ」に参加して ―活動報告―

11月3日、千葉県立中央博物館で開催された「自然誌フェスタ」に、ちば環境情報センターの一員として参加させていただきました。長い間、谷津田での活動には参加できていませんでしたが、このたびお声をかけていただき、長年制作してきた羊毛フェルト作品を、ちば環境情報センターの活動展示ブースの一角に展示させていただきました。

キツネやノウサギ、イタチ、メジロ、アカガエルなど、千葉の自然をテーマにした野生動物や野鳥たちを並べると、「えっ、これ羊毛なの？」と驚く声も多く、来館者や専門の方々との交流も生まれました。羊毛に命を吹き込み、剥製とは異なるぬくもりを持つ作品を通して、自然への思いを共有できたように感じます。

また隣のスペースには体験コーナーを設け、色とりどりの羊毛をニードルで刺して人形を作り、クヌ

山梨県笛吹市 松下 優子

ギやトチの実の帽子を飾るなど、子どもたちの自由な発想が弾けました。終始にぎやかで笑顔にあふれたブースとなり、若いスタッフにも支えられ、世代をこえて元気をいただいた一日となりました。



子どもたちに羊毛フェルトを教える松下優子さん

## 我孫子市でのセミの初鳴きと鳴き納めの記録

- \* 自宅周辺の散歩した範囲(千葉県我孫子市西部)で確認したセミの\*
- \* 「初鳴き」「鳴き納め」の日になります。\*
- \* 2025年度は、アブラゼミとツクツクボウシが鳴き始めるのが例年\*
- \* より少し遅い感じでしたが、概ね変化なしでした。

初鳴き確認日	2025年	2024年	2023年	2022年	2021年
●ニイニゼミ	6月28日	6月29日	6月29日	7月2日	6月29日
●ミンミンゼミ	7月12日	7月16日	7月14日	7月14日	7月11日
●アブラゼミ	7月22日	7月5日	7月14日	7月17日	7月11日
●ヒグラシ	7月12日	7月21日	7月12日	7月20日	7月19日
●ツクツクボウシ	8月12日	8月2日	7月31日	8月9日	7月31日
●クマゼミ	7月23日	7月21日	7月22日	7月31日	8月5日

鳴き納め確認日	2025年	2024年	2023年	2022年	2021年
●ニイニゼミ	9月10日	9月4日	8月31日	8月20日	8月28日
●ミンミンゼミ	9月21日	9月18日	8月22日	9月15日	9月24日
●アブラゼミ	10月8日	10月15日	9月18日	10月8日	10月15日
●ヒグラシ	9月29日	9月10日	8月23日	10月2日	9月22日
●ツクツクボウシ	10月10日	10月15日	10月11日	10月3日	10月4日
●クマゼミ	9月2日	8月20日	8月4日	8月11日	8月24日

我孫子市 為貝 和弘

左の記録は、自宅周辺(約2km圏内)で、ここ5年間にわたり観察してきたものです。

今年はツクツクボウシとアブラゼミの鳴き始めが、例年よりやや遅かったように感じましたが、全体としては大きな違いのない年でした。

変化がないというのは、良いことだと思っています。

ニイニゼミについては、9/24に南房総の大房岬で鳴き声を聞いていますので、暖かい地方ではもっと遅くまで鳴いているのかもしれませんが

## 新浜の話 94 ～カモメの餌付け～

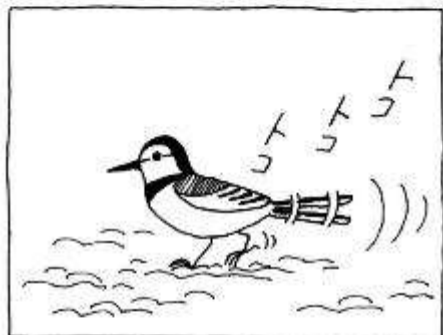
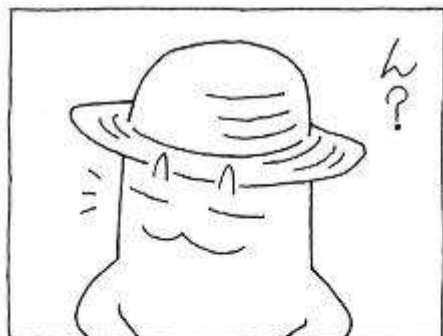
長年続けていた日常作業の一つに、カモメの餌付けがあります。きっかけは、観察舎がスタートした1976年、野鳥病院から丸浜川に放し飼いたしたウミネコ。毎日餌のイワシを投げてやっていたところ、野生のウミネコがそのイワシをとって食べたのです。そのうちに、主人が「おい、ウミネコ」と呼ぶと、遠い小島岬に群れているウミネコが舞い上がり、餌場集まるようになりました。

千葉県野鳥の会 市川市 蓮尾 純子

買ったイワシではとても足りなくて、当時の駅前のスーパー「ポニー行徳(今はドン・キホーテになっている)」の魚屋さんをお願いして、廃棄物のアラをいただくことができました。観察舎オープン当初には毎晩のように釣り人の閉め出しに回っていた主人ですが、保護区が存在が定着し、夜の見回りが減ったかわりに、夜の魚アラ搬入が仕事に加わりました。



# スロマン 作：つばあきこ (58)



スロマンはいつも陽気なのです。

夏のウミネコが姿を消すと入れ替わりにセグロカモメが現れ、集まる数も次第に増えて、1日に与えるアラは20 kgほどにも。ポニー行徳の次は渡部鮮魚さん、それから浦安の魚市場。一時、アナゴ専門の卸業者さんがアナゴのアラを届けてくださったこともあります。

餌の魚アラを搬入し、ひと口大に切ることは、それなりに時間のかかる作業です。夏の草刈りに替わって、冬の餌アラ準備が主人の仕事の中で大きな比重を占めてきました。魚屋さんのお正月休みの年末年始に備えて10日分、200 kgかそれ以上のアラを搬入し、切って冷凍保存するというのは、年末の大掃除に匹敵する大仕事でした。やがてフジパンの工場から廃棄のパンをいただくようになってからは、ユリカモメやオナガガモも餌場に集まりました。こうした無料の餌の利用で、野鳥病院に必要な餌の経費を節約することもできたわけです。

わずか30mの距離にある導流堤に、11月から3月までは、毎日のように100羽近い大型のセグロカモメがずらりと並び、珍しいシロカモメなどもまじります。図々しいユリカモメは道路にも降りました。午前11時半ころ、午後は15時ころに、餌のアラを入れたバケツを持って餌場に降りると、目の前で翼開長140 cm近いセグロカモメの群れが乱舞し、バケツをあけるとすぐさま1羽が舞い下りて、続いて群れが集まり、ほんの2、3分ほどで餌を平らげてしまいます。あとは水浴びして羽繕いしたり、求愛をするものも。15時半すぎごろ、どこかにある休眠場所に向けて飛び立ちます。

餌付けは鳥の保護とは何の関係もなし、むしろ望ましくない行為、とスタート時から重々承知。「ショーです。出演料です」言い訳しながらやってきました。一定量以上に餌を増やさないとだけは気をつけました。大きな負担となる作業を何故40年以上も続けたのか。

観察舎がスタートした50年前、保護区の存在価値を誰にもわかる形で示せるものはスズガモの大群だけでした。スズガモの大群が姿を消した1986年以降、鳥がいる場所の存在をアピールし、保護区と観察舎が存続できたことには、カモメ・ショーの功績も少なくなかったと思っています。

2012年から佐藤達夫さんが私費でがんばってやっていた、ジオロケーターストリック、渡りの実態に迫る調査も、餌に夢中になっているセグロカモメを手捕りにできたこと、しかも翌年に同じ個体を再捕獲してジオロケーターストリックを回収し、記録されたデータを読み取ることができたおかげです。

鳥インフルエンザの毎年の流行もあり、きっぱりとカモメの餌付けをやめたのは2017年だったか。2年ほどの間は、堤防に集まるセグロカモメが見られましたが、ここ数年来ほぼ完全に姿を消して、稀に記録されるだけになりました。これが本来あるべき正しい姿です。それでもさみしい。

【発送お手伝いのお願い】ニュースレター2026年 1月号(第341号)の発送を 1月 7日(水) 10時から千葉市民活動支援センター(千葉市中央区中央2-5-1 千葉中央ツインビル2号館9階)にておこなう予定です。お手伝いいただける方は小西 090-7941-7655)までご連絡ください。

..... あなたも入会しませんか .....

住所〒

ふりがな  
氏名

E-mail

会費の郵便振替口座は00130-3-369499です。

NPO法人ちば環境情報センターのニュースレターとイベント情報は、リサイクルペーパーを使用しています。

編集後記: 早春のノビルは葉を引っ張っても球根を抜くことはできないけれど、花の時期は茎を引っ張ると球根までずっと抜ける。先日畑のたい肥場でいくつかの白い小さな球を発見。すべて分解されてほくほくのたい肥になっているのにこれだけは何もなかったかのようにみずみずしい。今年はノビルの横顔を少し知ることができた。  
mud-skipper ♀

11月期に入るとすっかりと秋も深まり、最低気温が10℃を切る日も週一ペースで増していく印象です。リンドウ広場にほぼ一杯におだ掛けされていた稲の脱穀も進み、1本、また1本とおだが畳まれて、静けさの戻

る小山の田んぼは田作りの季節に入っていきます。それでもイノシシはしっかりと荒らしに入ってきました。彼らも真剣なのだろうが・・・困るな。

☆睡蓮田んぼ「古代米の脱穀」 2025年11月15日(土) 報告：赤シャツ親父

涼しい朝でしたが、良く晴れて、清々しい小春日和となりました。2台の足ふみ脱穀機は威勢よくフル回転し、睡蓮田んぼから収穫された赤米、緑米は一気に脱穀されました。当方はそれに負けじと必死に唐箕がけ、良い運動になった。やはり、実りは何れも良好に見え来るべく糶摺りが大変楽しみです。参加者大人5名

【谷津田・季節のたより】 2025年11月

＜下大和田町＞ 報告 平沼勝男

11/2 ヒクイナが同時に3羽鳴いていました。アオジは声のみで5羽以上確認。ハイタカが上空を通過。キタテハが羽を広げてひなたぼっこをしていました。 11/3 脱穀機の作動確認の間、メジロが鳴いていました。 11/16 谷津田は紅葉が見ごろでした。田んぼで刈り取った草の除去をしていたらヤマカガシがでてきました。

＜小 山 町＞ 報告 赤：赤シャツ親父、た：たんぼぼ、小：小泉勉、高：高山邦明

11/1 クチキコオロギの様な声(赤) 今季初めてアオジの姿を見る(高) 11/2 ツグミの声を初めて聞く、林のケヤキが色づく(高) 11/4 朝冷え込んで初霜が降りる(高) 11/5 ヤマガラすぐ近くに留まる(た) 11/6 シロハラないしアカハラの声を聞く(高) 11/7 畑で2羽のジョウビタキが追っかけ合い、縄張り争いか?(高) 11/8 モズの高鳴き、ジョウビタキの声(た) 11/10 アシ原でモズがアオジらしき小鳥を襲うが失敗(高) 11/11 今季初めてカシラダカとシメの姿を見る(高) 11/12 ツグミ6羽の群れがヒヨドリと一緒にカキの実を食べていた、今季はツグミの渡りが順調の様子(高) 11/15 田んぼにオスのキジが1羽死んでいた。狩猟解禁の初日でハンターが来ていたので手負いで逃げて田んぼで絶命したのか?(小) 11/17 メジロが3羽、コナラの幹で樹液をなめていた、日中、陽ざしの下でキタテハやヤマトシジミが元気に飛んでいた(高) 11/19 エナガ、メジロ、シジュウカラ、ヤマガラが混群を作って林を移動していてにぎやか(高) 11/20 稲刈りが終わった田んぼのあちこちでアキアカネが連結打水産卵(高) 11/21 田んぼの周辺に連結したオオアオイトトンボが多数訪れていた、マユタテアカネ、マイコアカネ、アキアカネの姿も(高)

【イベントのお知らせ】主 催：NPO法人 ちば環境情報センター

＜下大和田谷津田＞ 連絡先：小西 TEL. 090-7941-7655, E-mail: yatsudasukisuki@gmail.com

※12月13日に予定していた収穫祭は中止になりました。餅つきを1月12日に実施します。

・森と水辺の手入れ

日 時：2025年12月21日(日) 9時45分～12時 雨天中止

内 容：マイ田んぼ復活のための整備と森の木の伐採などを行います。

持ち物：長袖長ズボンの服装、軍手、帽子、飲み物、午後まで活動する方は弁当、敷物 参加費：無料

・第312回 観察会とゴミ拾い

日 時：2026年 1月11日(日) 9時45分～12時 ※第2日曜日の実施です 雨天決行

内 容：冬鳥の観察を中心に、鹿島川合流部まで巡ります。

持ち物：筆記用具、飲み物、長靴、帽子、ゴミ袋、敷物 参加費：100円

・第313回 下大和田YPP「新春 もちつき大会」

日 時：2026年 1月12日(月・成人の日) 9時45分～14時頃

場 所：下大和田谷津田

内 容：今年収穫した緑米で、臼と杵を使った本格的なもちつきをします。

持ち物：お皿、お椀、箸、コップなど

参加費：中学生以上500円、小学生300円

＜小山町谷津田＞

・小山町、小学区田んぼ活動「畦の整備」

来期に向けた田んぼの整備を行います。今季もイノシシによる被害が大きいため、週末不定期にて実施致します。

日 時：2026年1月期 主に土曜日 10時～

場 所：りんどう広場

※上記参加ご希望の方は、赤シャツ親父 (e-mail: tomizo\_i@nifty.com) までご連絡下さい。応援頂けると助かります。その他のお問い合わせは高山 (ceic.ypp.oyama@gmail.com) までお気軽にメールでご連絡下さい。

